

人権意識の向上のために

【各教科・領域】 人権課題に関わる内容を取り上げた人権学習

第1学年の実践例（個別的な視点からの取組）

総合的な学習の時間 「持続可能な社会の創り手となる」

目標

・学年全体の目標「思いやりをもって、誰かのために活躍できる学年」を達成させるため、SDGsに関連した様々な人権課題を学び、考えることで相手の立場や気持ちを尊重して行動することの大切さに気付くことを目指す。



人権教育の視点

・様々な人権課題について調べ、他者と伝え合う活動を通して、世の中に存在する差別についての理解を深め、差別のない社会の実現に向け、努力しようとする態度を育てる。

活動

・SDGsの17のターゲットの中から、人権問題に関わりの深い4項目のターゲット「貧困をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」について、調べ学習・話し合い学習を行いました。

成果

・課題への理解を深め、他者と話し合うことで、社会へ貢献しようとする意欲や多様な価値観を認め合う態度をもつことができました。

【各教科・領域】 人権課題「同和問題」を取り上げた人権学習

第3学年の実践例（個別的な視点からの取組）

社会科（歴史的分野） 『『解放令』から水平社へ』

目標

・明治政府により「解放令」が出された後も差別が続き、そしてそれをなくすための運動が起こり、水平社の結成につながっていくことを理解し、自他の人権を尊重したり人権問題を解決したりする上で具体的に役立つ知識を身に付けさせる。



人権教育の視点

・「解放令」が出された後の被差別部落の人々の生活や、大正時代の差別をなくすための運動の広がりについて調べることを通して、水平社創立の経緯や今もなお部落差別が残ることを理解させる。



活動

・授業では人権課題「同和問題」に関わり、「解放令」が出された後も被差別部落の人々に対する差別が続いたことについて理解を深めるとともに、差別をなくす運動をどのように立ち上げていったのか調べる学習を通して、誤った知識や無知、偏見が現在でも人権侵害を引き起こしていることなどについて理解を深めました。

成果

・生徒一人一人が人権尊重という視点から歴史や現在起こっている現象や人権課題に関心を持ち、多様性を認めさせ、差別を許さない姿勢の大切さを学ぶことができました。